

室戸宣言

日本におけるジオパークは、2007年よりその活動が本格化し、現在まで発展し続けてきた。現在、5地域のジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟し、25地域のジオパークが日本ジオパークネットワークに加盟し、15地域の日本ジオパークネットワーク準会員地域、さらに多くのジオパークを目指す地域があり、様々な分野の人により各地域の活動が支えられている。

2012年11月2日から5日まで、高知県室戸市において、「人と地球の心地よい関係のために」をテーマに、第3回日本ジオパーク全国大会が開催をされた。そこで私たち参加者498名は、自然の恵みが豊かでありつつも災害の多い日本のジオパークの活動を進める上で、真に「心地よい関係」とは何かを考えるために、地球の特徴を学び、地震を伴う隆起によってつくられた大地の姿や、そこに根付いた文化や産業・歴史をジオツアーで体験し、地域住民が主役となるジオパーク活動のあり方と、そこでの“持続可能な発展”とは何かということについてお互いに語り合い、討議を重ねた。

その結果、私たちはここに以下のことを宣言する。

【室戸から学ぶこと・ジオパークの社会的意義】

一. 本大会開催地である室戸は、大地の豊かな恵みをうけ、それを利用しながら人々が暮らしている場所である。一方で、沖合に南海トラフを控え、遠くない将来に巨大地震がこの地を襲う場所でもある。このような自然の災いと恵みの中で実践されている室戸ジオパークの活動から、私たちが学ぶことは多い。人々はジオの中で暮らし、ジオの恵みを受け、文化を育んできた。室戸に集まった私たちは、これらの学びを、各ジオパーク活動に生かさねばならない。私たちは、「変動帯としての日本列島」における大地の恵みに感謝し、自然災害が起こるメカニズムも理解し、科学的な成果を背景にしたジオパークにおける多様な活動を通して、地球とともに生きる新たな社会の実現を目指す。

【三陸ジオパークの支援・防災とジオパーク】

一. 本大会には東日本大震災の被災地から高校生らが参加した。震災被災地の復興のなかで、三陸地方で現在進められているジオパークの活動に対し、私たちはともにジオパークに携わる仲間として、その活動を支援する。そして、私たちは三陸地方の活動から災害とともに暮らす地域の姿を学び、それぞれのジオパークの活動に活かしていく。

私たちは、ここ数年で、東日本大震災、新燃岳噴火、阿蘇の集中豪雨などいくつもの自然災害を経験した。湿润変動帯に暮らす私たちは、常に、自然災害のリスクにさらされているため、それに備え、うまくつきあっていかなければならない。ジオパークを、災害の記憶を風化させず次世代に伝える場として、また災害情報共有の場として、積極的に活用する。

【地域住民によるジオパークとコミュニケーション】

一．私たちは、コミュニケーションを重視し、さまざまな工夫によって多様な地域住民の主体的な参加があるジオパークを目指す。ジオパークは、地域の誇り、地域振興、経済発展、環境保全、教育、防災などの地域の課題を複合的に解決していく場になりうる。これまで取り組まれていた地域づくり・まちづくりをベースに、すべての人々が当事者となる、ジオ的な視点を盛り込んだ地域のストーリーを紡ぎ出していく。そして、そのストーリーから新たなサービスを生み出し、そこからよりスムーズなコミュニケーションをつくりだしていく。

また、JGN 加盟地域間でネットワークを活かしたコミュニケーションを活性化し、課題解決に向けて共に助けあっていく。私たちは、ジオパークのあるべき姿をコミュニケーションの中で考える。

【保全活動】

一．ジオパークにおける保全活動をすすめるため、調査・研究を推進し、その基盤を整え、継続的に議論をすすめる。

ジオパークのガイドは、ジオサイトに最も近い場所にいる地域の環境の管理者であり、地域住民や観光客らに、持続可能なジオパーク活動にしていくために、保全活動の重要性を伝えていく役割を果たす。

【ガイドの役割とジオツアーの充実】

一．ジオパークの活動をよりよいものにするために、質の高いガイドの活動とジオツアーの内容の充実を進めて行く。

ガイドはお互いに交流して、ネットワーク化をはかる。自ら技術の研鑽につとめ、ガイドの数が増えるよう努力し、ガイドの付加価値を高める。ジオパークを訪れる観光客にガイドすることは必要だが、「地域住民」にジオパークを伝えることも大切である。

日本ジオパークネットワークのつながりを活かし、観光客が各地のジオパークを周遊して楽しめるよう、アイデアを共有して、ジオツアーを組み立てていくことを探求する。

【ネットワーク・交流】

一．この大会には、アジアのジオパークの仲間も参加した。私たちは、質の高いジオパークの活動にするため、国内外の各ジオパークの活動からお互いに学び、相互に研鑽し、連携を深めていく。また、アジア太平洋ジオパークネットワーク (APGN)、グローバルジオパークネットワーク (GGN) といった世界のジオパークネットワークとの人的交流、情報交換をすすめ、交流の活発化を推進し、共にジオパークという新しい価値を創造していく。

【ジオパークの将来】

一．本大会で次世代を担う若者によって出された「日本ジオパーク・高校生室戸宣言」の内容を支持する．ジオパークの活動が，今後持続的に行われていくために，私たちは，次世代とともにジオパークの活動を進めていく．

【本大会総括】

一．私たちは，地域のあらゆる世代に支えられて実施されたこの大会を通じて，改めてジオパークを楽しみ，人と地球との心地よい関係を笑顔で伝え，地域を一つにすることの大切さを確認した．

2012年11月4日

第3回日本ジオパーク室戸大会 実行委員会 委員長 小松幹侍